

耐久社記念館に就いて
※浜口 恵璋

1

耐久社記念館は、もと広村大道安楽寺の東側にあった耐久社の本館を明治39年に同村西の浜に移して図書閲覧室として使用していたものである。然るにその後、戦前から記念館として保存するがよからうと云うことで耐久中学校の西南隅の方に移して諸種の会合などにも使用して居たが、戦時中修繕も行き届かず、また昭和廿一年十二月廿一日南海大震災の際、海嘯の為め、いたく荒れはて使用も出来ないようになって居たが、何分戦後のため修繕の方法もなく荒れ果てて居たものを学校の制度もかわり、耐久中学校は新



に耐久高等学校として湯浅町にあった女学校と併合し、もとの校舎は、その後南広連合の中学校として使用することとなったものの記念館の如きものは其必要も認めないような有様で一層荒れ果て狐狸の棲家とまでは行かずとも荒れ果てて実に哀れな有様となりはてて居たのである。

其後少し手入れをして、和歌山県史跡として指定されたものの、それは唯名義だけの事であって何等見るべきものがなかったのである。

2

処が耐久中学校の校友有志者の発起によってその西南隅にあったものを、東方の出口の方に移転し、その基礎を高くし、四方に竹垣をめぐるし、兎も角記念館としての面目を保つように出来上がった。それが為め校友諸君は多大の犠牲を払って漸く出来上りこれに創立者濱口梧陵、濱口東江、岩崎明岳老の肖像、其他校主であった濱口容所、濱口洞二氏、宝山校長の肖像をかか

げ、又嘉永の頃用ひたと云はるる鉄砲や鎧甲などを陳列してその創立当時のことを忍ばしむるようにしたことは、まことに有意義のことである。

(つづく)

(※濱口恵璋師は、元安楽寺の住職で明治29年から耐久学舎、私立耐久中学校の教員として勤務。広川町誌編集委員長も歴任、郷土史家として活躍されました。)

濱口梧陵の究極の目標は、教育振興であると思いますが、その原点は「広村稽古場」であり「耐久」であると考え、今号から初期、中期の耐久について、連載します。

《お客様の声》

① 1年間にたくさんの方が来るんですね。とても良い勉強になりました。できれば、外国語の展示を増やしてほしいです。3D映画もすばらしいし外国の人に伝わらなかつたら、残念に思います。

(九州から来られたお客様)

② この記念館の家はいいですね。こんな古くても大きなりっぱな家を残しておくのは、たいせつなことですよね。まあ、文化財的な家を保存していくのはたいへんですよね。費用もかかるしね。

ここは、旅行業をしている弟に、すごく良いので行ってこいと言われたので来ました。

(京都から来られた女性)



国土交通省から贈呈されたパネル

<稲むらの火の館の紹介>

濱口梧陵記念館／津波防災教育センター

〒643-0071 住所 広川町広671

TEL : 0737-64-1760 / FAX : 0737-64-1761

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamurano-hi/>

*開館時間：午前10時～午後5時（受付終了4時）

*休館日：月曜日・火曜日（祝日開館）

年末年始（12/29～1/4）

*記念館だけの入場は無料です。

*